

【今日の説教から】

「主の来臨が近づいているから耐え忍びなさい」。主の時が来れば、私たちには永遠の安息が与えられます。「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。」黙示録21章

だから、「耐え忍びなさい。心を強くし、互いに不平を言いあってはならない。」

いよいよ困難が極まる時、苦しみを耐え忍び、疲れ果てる時、私たちは互いに不平を言い合うことにもなります。ヤコブはその時こそ「互いに祈り合う」時だと論じます。

「信仰による祈は、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる。

だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。」

人は皆罪を犯す者です。そして私たちの肉体は病にも苦しみます。私たちの弱さの中で、私たちが出来ることは、互いに支え合い、助け合い、祈り合うことです。病の時の祈り、痛みに寄り添う祈り、罪にさまよう時、互いに罪を告白し合って祈り合うこと。こうして義(神様との正しい関係)に生きる時、この御言葉の真実を悟ることが出来ます。「主が彼になされたことの結末を見て、主がいかに慈愛とあわれみとに富んだかたであるかが、わかるはずである」

皆様、おはようございます。11月も半ばになりました。いよいよ今年も締めくくりの時ですが、私たちはクリスマスの喜びの知らせを多くの方々知らせたく、心から願っております。

ハワイからお越しになられました先生方が、クリスマスの喜びの知らせを告知させるために様々なプログラムを計画してくださいました。12月8日金曜日の夕方は庄原市民会館でいつものアロハカフェの拡大版のような形で集まりがありますし、翌9日の土曜日は、昼はジョイフルで、夕方はラフォーレ庄原(旧かんぼの郷庄原)のロビーでクリスマスのためにお知らせをなさり、週3回のゴスペルフラの教室の宣伝をなさり、24日の日曜日には、庄原グランドホテルの一室を借りてクリスマスの集まりと、一般の皆さん方と練習したゴスペルフラの披露をする予定です。12月にはハワイからフラの先生が1か月にわたり庄原にお越しになります。私たちもまた、祈りと共に一丸となって、手と手を取り合って、この地域の福音伝道のために進みたいと願っております。皆様方のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

詩編 96:1 新しい歌を主にむかってうたえ。全地よ、主にむかってうたえ。

96:2 主にむかって歌い、そのみ名をほめよ。日ごとにその救を宣べ伝えよ。

96:3 もろもろの国の中にその栄光をあらわし、もろもろの民の中にそのくすしみわぎをあらわせ。

96:4 主は大いなる神であって、いともほめたたうべきもの、もろもろの神にまさって恐るべき者である。

96:5 もろもろの民のすべての神はむなしい。しかし主はもろもろの天を造られた。

96:6 誉と、威厳とはそのみ前にあり、力と、うるわしきとはその聖所にある。

96:7 もろもろの民のやからよ、主に帰せよ、栄光と力とを主に帰せよ。

さてヤコブ書も終わりの部分となりました。ご一緒に読み進めてまいりましょう。

7 だから、兄弟たちよ。主の来臨の時まで耐え忍びなさい。見よ、農夫は、地の尊い実りを、前の雨と後の雨とがあるまで、耐え忍んで待っている。

8 あなたがたも、主の来臨が近づいているから、耐え忍びなさい。心を強くしていなさい。

主の来臨が近づいています。私たちは黙示録を読みましたが、終わりの時には様々な苦しみが襲い掛かりました。世の中に暗さが増し加わり、様々な不穏なことが起こっても産みの苦しみの始まりに過ぎないとイエス様はおっしゃいました。

マタイ 24:3 またオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、「どうぞお話してください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがまたおいでになる時や、世の終わりには、どんな前兆がありますか」。

24:4 そこでイエスは答えて言われた、「人に惑わされないように気をつけなさい。

24:5 多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう。

24:6 また、戦争と戦争のうわさを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけません。それは起らねばならないが、まだ終りではない。

24:7 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききんが起り、また地震があるであろう。

24:8 しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである。

24:9 そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。

24:10 そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであろう。

24:11 また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。

24:12 また不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷えるであろう。

24:13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

そうです。最後まで耐える者は救われます。黙示録 21 章にある通りです。

21:1 わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。

21:2 また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。

21:3 また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、

21:4 人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである」。

5:7 だから、兄弟たちよ。主の来臨の時まで耐え忍びなさい。見よ、農夫は、地の尊い実りを、前の雨と後の雨とがあるまで、耐え忍んで待っている。

5:8 あなたがたも、主の来臨が近づいているから、耐え忍びなさい。心を強くしていなさい。

前の雨と後の雨。秋の雨と春の雨。

聖書の舞台となっているパレスチナは、4月から10月頃まで続く長い「乾季」と、10月の終わりから始まる「雨季」があります。「雨季」は乾季で岩のように硬くなった地を柔らかくするための激しい雨が降ることからはじまります。柔らかくなった地を耕して種をまくのです。この「雨」を「先の雨」（あるいは「秋の雨」）と言います。そのあと、12～2月にかけて間欠的に激しい雨が降り、やがて春の収穫時期が近づくと、穀物を十分に実らせるためのものすごい勢いの雨が降り始めます。この雨を「後の雨」（あるいは「春の雨」）と言います。二つの雨—「先の雨と後の雨」、「秋の雨と春の雨」—が降らなければ、種まきも刈り入れもできないのです。（「牧師の書斎」サイトより）

自然の力と恵みがなければ、作物を得ることは出来ません。人はただ、恵みの時を待つのみです。困難が募り、どうにもこうにも出来ない苦境の時。終わりの時が近づく混沌の時。しかし私たちは、主の来臨を待つ者たちです。主が来られるのなら、その時には永遠の慰めがあることを私たちは知っています。私たちは、天に宝を積む者です。全ては神様からいただいたもの。そして今あるのはお預かりしているものです。主が良しとされれば、私たちに必要なものは満たされるのです。主は私たちには何が必要かを知っておられます。ですから着物の事で思い悩むな、糧の事で思い悩むな。明日の事を思い煩うな、明日は明日。今日出来ることを精いっぱい努めなさいと主は言われました。

マタイ 6:19 あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。

6:20 むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。

6:21 あなたの宝のある所には、心もあるからである。

6:22 目はからだのあかりである。だから、あなたの目が澄んでおれば、全身も明るいだらう。

6:23 しかし、あなたの目が悪ければ、全身も暗いだらう。だから、もしあなたの内なる光が暗ければ、その暗さは、どんなであらう。

6:24 だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

6:25 それだから、あなたがたに言う。何を食べようか、何を飲もうかと、自分の命のことで思いわずらい、何を着ようかと自分のからだのことで思いわずらうな。命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。

6:26 空の鳥を見るがよい。まくことも、刈ることもせず、倉に取り入れることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は彼らを養っていて下さる。あなたがたは彼らよりも、はるかにすぐれた者ではないか。

6:27 あなたがたのうち、だれが思いわずらったからとて、自分の寿命をわずかでも延ばすことができようか。

6:28 また、なぜ、着物のことで思いわずらうのか。野の花がどうして育っているか、考えて見るがよい。働きもせず、紡ぎもしない。

6:29 しかし、あなたがたに言うが、栄華をきわめた時のソロモンでさえ、この花の一つほども着飾ってはいなかった。

6:30 きょうは生えていて、あすは炉に投げ入れられる野の草でさえ、神はこのように装って下さるのなら、あなたがたに、それ以上よくして下さらないはずがあらうか。ああ、信仰の薄い者たちよ。

6:31 だから、何を食べようか、何を飲もうか、あるいは何を着ようかと言って思いわずらうな。

6:32 これらのものはみな、異邦人が切に求めているものである。あなたがたの天の父は、これらのものが、ことごとくあなたがたに必要であることをご存じである。

6:33 まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであらう。

6:34 だから、あすのことを思いわずらうな。あすのことは、あす自身が思いわずらうであらう。一日の苦勞は、その日一日だけで十分である。

5:8 あなたがたも、主の来臨が近づいているから、耐え忍びなさい。心を強くしていなさい。

5:9 兄弟たちよ。互に不平を言い合ってはならない。さばきを受けるかも知れないから。見よ、さばき主が、すでに戸口に立っておられる。

神の国とその義とを求め。神様との関係の中で、すべては解決する。それこそが大事と私たちは学びます。色々な異端の宗教がそれを悪用して、人々を信用させ、無防備にさせて、人々からかすめ取っています。私たちは本当に心が痛みます。

苦しい時、私たちが耐え忍ぶことが出来るようにと、心を強くしていることが出来るようにと、神様は私たちを助けて下さいます。ついつい不平がにじみ出ます。そして近くにいる人、遠くにいる人に対して不平を言ったり裁いたりするようになります。それほど私たちを取り巻く状況が困難を極めるからです。並大抵の事ではないからです。ですから私たちは疲れ果て、判断を誤り、捨て鉢になったり人を責めたりします。解決の手段が見いだされず、焦ってそのような行動に出るのです。満ち足りて、幸せであって、健康であって、疲れていなかったらそんなことはしなかったでしょう。しかし私たちには色々な困難が襲い掛かり、そうして忍耐しきれなくなって心の感情が爆発してしまうことがあるのです。

5:8 あなたがたも、主の来臨が近づいているから、耐え忍びなさい。心を強くしていなさい。

5:9 兄弟たちよ。互に不平を言い合ってはならない。さばきを受けるかも知れないから。見よ、さばき主が、すでに戸口に立っておられる。

しかし、人を裁くのは私たちの業ではなく、神様のなさることです。

ルカ 6:37 人をさばくな。そうすれば、自分もさばかれることがないであろう。また人を罪に定めるな。そうすれば、自分も罪に定められることがないであろう。ゆるしてやれ。そうすれば、自分もゆるされるであろう。

5:10 兄弟たちよ。苦しみを耐え忍ぶことについては、主の御名によって語った預言者たちを模範にするがよい。

5:11 忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いている。また、主が彼になさったことの結末を見て、主がいかに慈愛とあわれみとに富んだかたであるかが、わかるはずである。

ヨブは正しい人でしたが、それでも試みはやって来ました。私たちは試みの意味を思案しますが、神様のみ思いは私たちをはるかに超えるものです。私たちは考えても考えても意味の

分からない時があります。しかしそういう時に私たちにとって助けとなるのが忍耐です。このヤコブ書もまた、忍耐に始まって忍耐で終わります。

1:1 神と主イエス・キリストとの僕ヤコブから、離散している十二部族の人々へ、あいさつをおくる。

1:2 わたしの兄弟たちよ。あなたがたが、いろいろな試練に会った場合、それをむしろ非常に喜ばしいことと思いなさい。

1:3 あなたがたの知っているとおりの、信仰がためされることによって、忍耐が生み出されるからである。

1:4 だから、なんら欠点のない、完全な、でき上がった人となるように、その忍耐力を十分に働かせるがよい。

忍耐は、私たちの信仰を高めます。どんな状況でも、訳が分からない、考えても分からない状況でも天地創造の、御子をもって私たちを罪から贖ってくださった神様を信仰をし続けること、そうして与えられるのが忍耐という賜物です。信仰による忍耐がなければ困難の世を進むことは出来ません。心を強く持って、預言者たちが、またかつての信仰者たちが歩んだ道を辿って行きたいと願います。そして主がそれぞれの人たちにどのように報いられたのかを知りたいと願います。

「主が彼になさったことの結末を見て、主がいかに慈愛とあわれみとに富んだかたであるかが、わかるはずである。」

5:12 さて、わたしの兄弟たちよ。何はともあれ、誓いをしてはならない。天をさしても、地をさしても、あるいは、そのほかのどんな誓いによっても、いっさい誓ってはならない。むしろ、「しかり」を「しかり」とし、「否」を「否」としなさい。そうしないと、あなたがたは、さばきを受けることになる。

神に誓うということ、誓うならば、その誓いに反したことを成したときにさばきを受けなければなりません。私たちは弱き者であり、大仰に、天に対して誓うということをせずに、ただはい、いいえと言っていけばよろしいと語られます。

5:13 あなたがたの中に、苦しんでいる者があるか。その人は、祈るがよい。喜んでいる者があるか。その人は、さんびするがよい。

5:14 あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリブ油を注いで祈ってもらうがよい。

5:15 信仰による祈りは、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。

かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる。

5:16 だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである。

祈りの大切さが語られます。先には不平を互いに言い合う姿がありました。しかし私たちは弱き者、裁くことも人を上から批評するものでもなくて、祈り合い、支え合い、助け合う存在であることが記されています。

弱さを認め合い、互いに弱さを認め、神様の前に出て祈る。弱さを認め、未熟さを認め、互いに気遣い、病の重荷を罪の重荷を互いに担い合い、お互いのために祈る。これこそが神様との関係の中にある義の生き方であり、その義にある人のためには神様は大きな力を現してくださいます。真剣に共に生き、祈る時、神様は御業を行ってくださいます。

歴代誌下 16:9 主の目はあまねく全地を行きめぐり、自分に向かって心を全うする者のために力をあらわされる。

5:17 エリヤは、わたしたちと同じ人間であったが、雨が降らないようにと祈をささげたところ、三年六か月のあいだ、地上に雨が降らなかった。

5:18 それから、ふたたび祈ったところ、天は雨を降らせ、地はその実をみのらせた。

旧約聖書のスーパーヒーロー的な預言者エリヤでさえ、弱り疲れる私たちと同じ人間でした。

列王記上 19:1 アハブはエリヤのしたすべての事、また彼がすべての預言者を刀で殺したことをイゼベルに告げたので、

19:2 イゼベルは使者をエリヤにつかわして言った、「もしわたしが、あすの今ごろ、あなたの命をあの人々のひとりの命のようにしていないならば、神々がどんなにでも、わたしを罰してくださるように」。

19:3 そこでエリヤは恐れて、自分の命を救うために立って逃げ、ユダに属するベエルシバへ行って、しもべをそこに残し、

19:4 自分は一日の道のりほど荒野にはいって行って、れだまの木の下に座し、自分の死を求めて言った、「主よ、もはや、じゅうぶんです。今わたしの命を取ってください。わたしは先祖にまさる者ではありません」。

19:5 彼はれだまの木の下に伏して眠ったが、天の使が彼にさわり、「起きて食べなさい」と言ったので、

19:6 起きて見ると、頭のそばに、焼け石の上で焼いたパン一個と、一びんの水があった。彼は食べ、かつ飲んでまた寝た。

19:7 主の使は再びきて、彼にさわって言った、「起きて食べなさい。道が遠くて耐えられないでしょうから」。

19:8 彼は起きて食べ、かつ飲み、その食物で力づいて四十日四十夜行って、神の山ホレブに着いた。

しかしその弱い者に過ぎないものにも関わらず、神様はその人を尊く用い、ご自分の御業を現されるのです。

5:19 わたしの兄弟たちよ。あなたがたのうち、真理の道から踏み迷う者があり、だれかが彼を引きもどすなら、

5:20 かように罪人を迷いの道から引きもどす人は、そのたましいを死から救い出し、かつ、多くの罪をおおうものであることを、知るべきである。

ペテロも主を三度も否み、泣き崩れました。しかし彼は立ち上がりました。ただ主の赦しにすがって立ち上がりました。

ルカ 22:31 シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。

22:32 しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それで、あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」。

22:59 約一時間たってから、またほかの者が言い張った、「たしかにこの人もイエスと一緒にだった。この人もガリラヤ人なのだから」。

22:60 ペテロは言った、「あなたの言っていることは、わたしにわからない」。すると、彼がまだ言い終らぬうちに、たちまち、鶏が鳴いた。

22:61 主は振りむいてペテロを見つめられた。そのときペテロは、「きょう、鶏がなく前に、三度わたしを知らないと言うであろう」と言われた主のお言葉を思い出した。

22:62 そして外へ出て、激しく泣いた。

しかしペテロのためには豊かな主の憐れみと赦しとがありました。私たちもまた、その憐れみの中で生かされています。ですから、私たちはお互いのために祈り、支え、仕え、癒しを祈り、不出来なところをかばい、執り成し祈り、真理の道から離れる方を引き戻し、これこそが救いの道、いのちの道であると信じ進み、多くの罪が覆われ赦されるということを信じ進みたいと願うのです。

5:11 忍び抜いた人たちはさいわいであると、わたしたちは思う。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いている。また、主が彼になさったことの結末を見て、主がいかに慈愛とあわれみとに富んだかたであるかが、わかるはずである。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。私たちが耐え忍ぶ

その先には大きな祝福と幸いとが待っていることを知り、耐える力を

与えて下さいますことをありがとうございます。「主が最後にどのような

にしてくださったかを知っています。主は慈しみ深く、憐れみに満ちた

方だからです」との御言葉に感謝いたします。それならばこそ、疲れ果

てて互いに不平を言うことなく、心を強くし、心を固くして、互いに弱

さを認め、互いの弱さを担って支え、祈り、仕え合うことができますよ

うにとお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。

主イエス様の御名によって祈ります。アーメン